『人権の花』観賞会

11月19日、大坪小学校で『人権の花』観賞会がありました。

『人権の花』運動とは、年間を通した花の植栽や管理を通じて、児童の思いやりや協力する心を育てようと、唐津・伊万里人権啓発活動地域ネットワーク協議会が、小学生を対象に行っているものです。

今年度『人権の花』運動に取り組んだ大坪小学校の児童たちは、マリーゴールドなど6種類の花をこれまで大切に育ててきました。

この日は、児童たちが体育館に集まり、育てた花を観賞しながら、花をテーマにした人権劇などを披露したほか『人権の花』運動に取り組んでみて感じたことなどを発表しました。

↑きれいに咲いている花々を前にして『ありがとうの花』を歌いました

みんなで考えよう 人権・同和問題 No.280

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

思いあう心

『人権』と聞くと「難しそう」「自分には関係ない」と感じる人がいるかもしれません。しかし、私たちが暮らす社会は、部落差別をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がいを理由にした問題など、さまざまな人権問題が存在しています。その多くは、無知や無関心、無理解が原因で起こっています。

誰でも一度は「そんなつもりではなかったのに、相手を傷つけてしまった」という経験があるのではないでしょうか。どれだけ気を付けていても、感じ方は人それぞれです。大切なのは『自分がどう思うか』ではなく『相手がどう感じるか』を想像することです。声のかけ方や言葉の選び方、ちょっとした態度によって、相手の気持ちは大きく変わることがあります。

お互いを大切にするための第一歩は『知ること』です。人権に関するさまざまな問題に関心を持ち、学ぶことで、違いや立場の違う人への理解が深まります。それが『思いあう心』につながり、誰もが暮らしやすい社会をつくる力になります。

そもそも『人権』は、すべての人が自分らしく生きるために持っている基本的な権利です。特別な人のものではなく、生まれたときから私たち一人一人が持っているものです。誰かの気持ちに寄り添い、誰かの声に耳を傾ける、その積み重ねが、差別のない社会をつくっていきます。

まずは、自分にできることを考え、行動に移してみましょう。一人一人の小さな思いやりが、みんなの大きな幸せにつながります。

●問合先　生涯学習課人権・同和教育係（☎23-3186）

郷土の文化財

遺跡余話 ～伊万里の地名がついた石器技法～

●問合先　生涯学習課文化財係（☎22-1262）

皆さんは、大きな鯛を一匹丸ごともらったらどうしますか。最初からウロコ取りや三枚おろしをするよりも、あらかじめ下処理されている方が簡単で便利ですよね。実は、石器作りにもこれとよく似たことがあります。

ナイフや矢じりなどの石器を作るには、まず元になる『石刃（せきじん）（ブレイド）』が必要です。その石刃を作り出すには、黒曜石などの原石を打ち割って、石刃を効率よく、また、数多く作り出すことができる形（石核）に整える高度な技術が必要です。

腰岳の中腹にある『鈴桶（すずおけ）』地区の鈴桶遺跡（縄文時代）からは、この石器の元になる縦長の石刃が大量に見つかっています。ここで使われていた石刃製作の技術は、効率性も完成度も高く、優れていることから『鈴桶型石刃技法』と呼ばれています。

この縦長の石刃は、加工がしやすく、ナイフや矢じりなどを簡単に作ることができたため、この地域だけでなく、福岡や熊本にも広く流通していました。原石の状態から石器を作り上げるよりも、自分が作りたい形に加工しやすい石刃を手に入れる方が、当時の人たちにとっては便利だったのでしょう。

伊万里の地名がついた技法があるなんて、とても誇らしく感じますね。

↑鈴桶遺跡の石刃